

令和2年度 家庭教育オピニオンリーダー研修⑤ 実施報告

実施日：令和2年10月30日（金）

新型コロナウイルス感染防止のため、「3密」回避対策や受付時の健康チェック及び検温、パーティションの設置等を行い、実施しました。



○ 説明・演習「遊びの中で学ぶ子どもたち」

総合教育センター幼児教育部 小倉 庸寛 幼児教育指導員

前半は、幼児教育の現在や幼児期の子どもに関する説明があり、後半は、映像を題材に受講者各自が幼児教育などについて考える演習となりました。

講師からは、は認定こども園の園長として、「生きる力は学びの中にあり、学びは遊びの中にある」という教育方針に基づいて活動していること、10年前から求めていた幼児教育・保育の無償化が昨年度に実現するなど幼児教育の現在は過渡期であること、子ども自身の達成感と成功体験が子どもの発達につながることなどの話があり、受講者は熱心に耳を傾けていました。

演習では、映像にある幼児の活動の様子から、幼児期における思考力や判断力、表現力、知識、技能などの基礎力をどう育むかについて考えました。まとめとして、幼児期に全身を使って遊びながら経験・体験することが主体的、対話的で深い学びにつながり、小学校以降の学びに向かう原動力になるという話などがありました。受講者は幼児教育への理解を深める機会となりました。

○ 演習「家庭教育支援事業の企画」

総合教育センター生涯学習部職員

当研修のまとめとして位置づけられている演習であり、子育てや家庭教育の支援に関する講話、コミュニケーションやカウンセリングマインドに関する演習などを通して学んだことや理解したこと、気づいたことなどをふりかえりながら、グループに分かれて自分たちにできる家庭教育の支援事業を企画しました。

はじめに、担当から演習のスケジュールと進め方、ワークシートと発表原稿などに関する説明がありました。そして、グループごとに家庭教育の「現状と課題」を基に、実施したい事業の「事業名（タイトル）」、「事業目的」、「事業内容」、「（事業の）アピールポイント」を考えました。特に「現状と課題」の部分では各グループで積極的に意見を交換していました。その後も熱心に企画・立案の作業が進められ、各グループともに充実した時間となりました。最後に、各グループの進捗状況などの情報の共有が行われました。それぞれが家庭教育の現状と課題を踏まえた特徴ある事業の企画となっていて、次回最終日の発表が楽しみです。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・ 幼児期がいかに大切な時期であるか、改めて学ぶことができました。
- ・ 体力や思考力など、あらゆる面で成長が見込める幼児期の体験の重要性を理解しました。
- ・ 様々な立場の方と話し合うことで色々な気づきを得ることができました。立案した企画を実践することの難しさはあると思いますが、オピニオンリーダーを理解する上で、大変貴重な時間を過ごすことができました。
- ・ 家庭教育を支援するための企画を考える楽しさを体験することができました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp